

工学研究科・工学部意見箱回答用紙【R2-1】

投稿日：令和2年4月7日

【タイトル】令和2年度大学院入試における英語民間試験の活用についての意見

【意見・要望】

TOEIC(TOEFL)スコアを取得できていない受験生だけでなく、取得済みの受験生にも配慮を施した方針にしていただきたい。

背景：コロナウイルスの影響で一部の英語民間試験が中止となり、それらの試験結果を入試科目として採用していた大学では対応が求められている。すでにいくつかの大学は方針を示しているが、それらの中には「英語試験自体を無くす」「民間試験のスコア提出を求めない」など受験生間の公平性を担保できていない施策がいくつか見られる。東北大学では、未だ審議中であると伺った。同大学には公平な施策を打ち出していきたいと考え、意見を述べることにした。

意見の根拠：TOEIC(TOEFL)は大学HPや教務課から事前に取得するよう求められていたものであるため、東北大学はそれらの取得したスコアを活用可能な施策を打ち出さなければならない。

詳細：昨年の秋頃から大学院試験において英語民間試験が必要になるため早めにスコアを取得しておくようにという連絡が教務課からアナウンスされていた。よって早めに準備をしてスコアを取得していた者は、大学側の出した大学院入試要項に沿って対策をしていたといえる。しかし前述のいくつかの大学の方針では、スコアを取得できなかった受験生の配慮をしている一方で取得済みの受験生への配慮が施されておらず、表面的には公平であるかのように見えるが内実は不平等な入試施策といわざるを得ない。

具体例を挙げると、昨年度秋から準備をしていた者は春以降で専門科目などに時間を割くことが可能な一方、昨年度秋に他の活動をしていた者は春以降に英語+専門科目の対策をする必要がある。通常であればこのようにして公平性が保たれるが、民間試験の活用がなされなかった場合には前者と後者の間での不公平性が保たれない。なぜなら前者は準備に割いた時間を用いて大学院試験免除などに向けて時間を使える可能性があったからである。

繰り返しになるが、この考えは先述の意見の根拠に基づいている。取得したスコアが活用できない施策は受験生間に不公平が生じるため採用されてはならないと考える。

【改善に向けた具体的提案】 具体的提案として、すでにスコアを取得しているものはそのスコアを提出し、スコアを取得していない者への救済措置として団体受験(TOEIC-I P, TOEFL-ITPテスト)を実施することが挙げられる。4月7日に東京工業大学が入試要項を発表し、この方針を採用していたため東北大学でも実施は可能と考えた。またこの施策以外意にも、東京工業大学の施策には最大限受験生間の公平性に配慮したものがいくつかあるので参考にさせていただきたい。

投稿内容公開の可否

該当□にチェック

 可 否

【担当部署からの回答】

ご意見いただきありがとうございます。
TOEIC 公開テスト中止に伴う対応については、所掌の委員会において現在検討中です。
対応策が決まり次第本研究科 Web サイトに掲載しますので、ご参照ください。

回答部署 教務課大学院教務係回答日 令和 2年 4月 8日